

ハクサイ春まきトンネル栽培の割繊維不織布利用による換気作業省力化技術

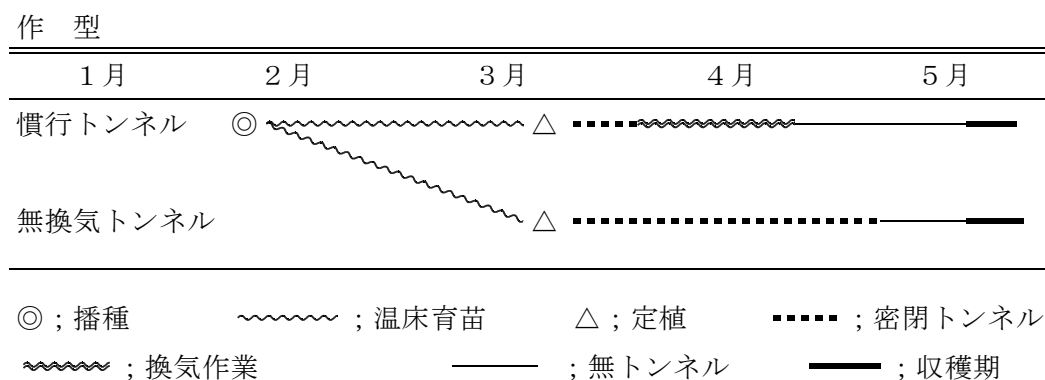
園芸試験場

1 取り上げた理由

県内のハクサイの春まきトンネル栽培では、被覆資材にポリエチレンフィルム等を使用している。このため春の温度上昇時には換気のためトンネルの開閉等が必要になる。また、結球中の春先の強風で株元に土砂が入り込むことによる品質低下も見られる。そこでトンネルの開閉が不要で長期被覆ができ、5月上旬の収穫が可能な被覆資材について検討したところ成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 1月下旬以降播種のハクサイ春まきトンネル栽培ではタフベル4000N、ベルツキー750N等割繊維不織布を被覆資材として利用することにより、トンネルの開閉を行わずに栽培が可能である。また試作42800、試作HT646ではタフベル4000N、ベルツキー750Nに比べて生育がやや早まる。
- 2) トンネル内の最低気温は資材による大きな差はないが、最高気温は農ポリが最も高く、次いで試作42800、タフベル4000N、ベルツキー750Nである。農ポリは過剰に温度が上昇するため、開閉なしでの栽培は困難である。



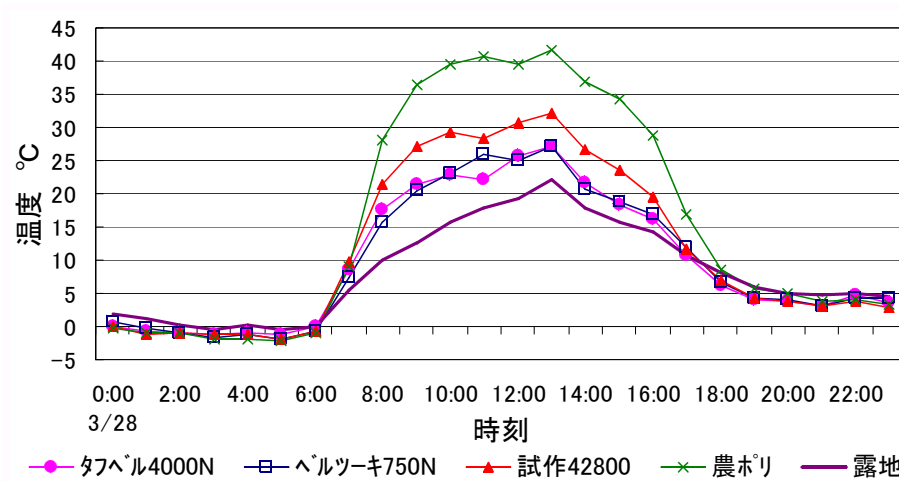
3 利活用の留意点

- 1) 本技術の対象地域は慣行の春はくさい栽培が行われている平野沿岸部とする。
- 2) 本技術は極晩抽性品種の「はるさかり」等を用い、1月下旬以降播種の作型に適用する。
- 3) 育苗は温床育苗で育苗日数約35日、本葉8~10枚程度とし、風のない温暖な日に定植を行う。
- 4) 本圃への施肥は早めに行い、透明マルチを使い定植前に地温を確保しておく。
- 5) 被覆資材は4月中、下旬頃に除去し、調製重1.2~1.5kgを目標に遅れないよう適期に収穫する。

(問い合わせ先：園芸試験場栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間 特産野菜の安定生産技術 平成8年～平成10年
- 2) 参考データ



資材の空隙率

資材名	空隙率
タフベル4000N	35%
ヘルツーキ750N	25%
試作42800 中央部	10%
試作42800 両端	1%
試作HT646 中央部	25%
試作HT646 両端	0%

*すべてPVAフィルム

*試作資材はK社製品

図-1 トンネル内気温の推移 (平成9年3月28日 天候:晴)

表-1 収穫時の品質 (品種:はるさかり)

播種日	定植日	資材名	調製重 (g)	平均花茎長 (cm)	8cm以上 抽たい株率 (%)	収穫日 (月/日)	
平成9年	1/10	タフベル4000N	1530	11.1	85	5/2	
		ヘルツーキ750N	1690	11.4	70	5/2	
		試作42800	2220	11.7	90	5/2	
		農ホリ	600	9.2	60	5/2	
	1/20	2/28	タフベル4000N	1110	6.1	10	5/2
			ヘルツーキ750N	1340	7.0	10	5/2
			試作42800	1770	6.2	0	5/2
			農ホリ	320	3.7	0	5/7
	2/10	3/18	タフベル4000N	1060	4.9	0	5/7
			ヘルツーキ750N	1110	4.8	0	5/7
			試作42800	1300	4.9	0	5/7
			農ホリ	320	3.7	0	5/7
平成10年	1/20	2/27	タフベル4000N	1530	6.1	15	5/1
		2/1	3/19	タフベル4000N	1230	3.8	0
	2/10	3/26	試作HT646	1330	3.8	0	5/6
			タフベル4000N	1330	2.6	0	5/11
			試作HT646	1340	2.5	0	5/11

*資材の参考価格は幅230cm, 長さ100mの規格で農ホリは約5,000円 (1~2年使用可), タフベル4000N及びヘルツーキ750Nは約30,000円 (5年以上使用可)である。試作4280, 試作HT646については, 平成11年からほぼ同様な仕様の製品 (商品名「タフツキ」) が市販されている。

3) 発表論文等

なし